

若手の皆さんの励みにつながれば

第59回県畜産共進会第10部1等賞1席
30年ぶりに全日本ホルスタイン共進会出場

田村勝さん

タムラ・マサル 44歳 Ⅱ土沢Ⅱ



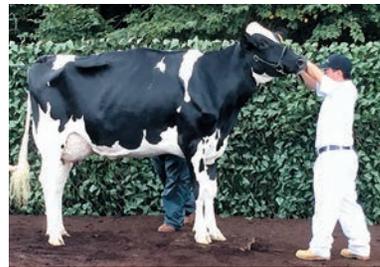
昭和46年生まれ。約80頭の乳牛を飼養しながら、西根地区酪農ヘルパー利用組合長を務める。第59回県畜産共進会第10部で1等賞1席に輝き、市内からは30年ぶりとなる全日本ホルスタイン共進会に出場。B型のうお座

「まさか自分がという思いで、喜びより驚きが大きかった」と、笑顔を浮かべるのは第59回県畜産共進会第10部で最高位の1等賞1席に輝いた田村勝さん。

9月25日に開催された同共進会で栄冠に輝いたのは「ブレイクスルーネオリダー号」。今年は、5年ごとに開かれる全日本ホルスタイン共進会の開催年で、県代表としての出場も決定。

美しい姿勢で牛を歩かせるリードマンとして次男の愛也さん(17)も出場し、親子で全国の舞台に挑みました。「市内からは30年ぶりの

出場ということで、生産者の皆さんからの期待の大きさを感じ、日を追うごとに意識が高まった」と、田村さん。全日本ホルスタイン共進会(10月23～26日、北海道ホルスタイン共進会場で開



入賞したブレイクスルーネオリダー号とリードマンを務めた田村さんの次男・愛也さん

催)では、第10部の8位に当たる1等賞3席の成績を収めました。「高校卒業後、北海道で酪農の実習生活を送っていました。まさか20数年後に、自分の牛をこの会場で歩かせるとは夢にも思っていなかった」と、感慨もひとしおです。

今後について「自分と次男にとっては大きな刺激になった。この結果が市内生産者の励みになればうれし、若い世代へのバックアップもしていきたい」と、意欲を燃やしていました。

編集後記

▼早くも師走、年を重ねるごとに月日の流れを早く感じるようになってきました。先日、合併10周年記念コンサートで沢田知可子さんの歌を聞くことができました。体育館の隅々まで響き渡る歌声にとても感動しました。プロってすごいですね。同世代のあの躍動的な姿を目の当たりにすると、私ももっと頑張らねばと痛感する今日このごろです。

▼市生活研究グループ連絡協議会の普代村での研修会(詳細は8ページ)に同行取材。会員の皆さんはととても明るい方々ばかりで、取材といえど、楽しい時間を過ごすことができました。途中で立ち寄った道の駅では、見るだけと思っていきましたが、魅力ある商品を前に、つい財布のひもが緩んでしまいました。スタンラリーもあるもので、道の駅巡りでもしようかな。

▼11月に入り、一気に気温がダウン。去る23日、ついに初雪が観測され、冬の到来を実感しています。寒いとどうしても食べることに注力してしまいますが、市内にはこだわりをもっておいしいものを生産、提供している人々がいることを再発見し、それが食欲にますます拍車をかけそうです。「姿が変わったね」と言われない程度に地産地消推進します(笑)

④沙